



平成27年度 学校経営の改革方針

三重県立四日市商業高等学校

I 目指す学校像(基本理念)

校訓「至誠」の精神のもとに、商業教育を通じて、知・徳・体の健全な成長を促し、礼儀を重んじ、誠実を旨とする専門性の高い社会人の育成に努めます。

II 現状と課題

- 1 119年という県内でも最も長い伝統を持つ学校の一つであり、在籍する生徒も一定の評価を受けている本校ですが、近年の大学進学率の上昇に伴う普通科高校の人気から、本校への入学希望者数は必ずしも多くありません。本校の輩出した人材の活躍ぶりや本校の教育実績及び進路実績を的確に地域や中学生に情報発信すると共に、学校としての教育の質を向上させ、より魅力ある学校にするための更なる努力や工夫をしていくことが求められています。
- 2 複雑化する社会を生き抜いていく職業人となるため、基礎学力から専門的な商業にかかる内容、また現代社会に対応した最先端の内容に至るまでしっかりとした力をつけていく必要があります。そのため、本校としても教育内容を更に充実させると共に、職員が指導力を高めていくことが求められています。また、本校入学者は資格取得に魅力を感じて入学してくる生徒が多くいます。資格試験合格者数はこれまで順調に伸びてきていますが、時代や社会のニーズに適合した資格試験の選択及び上級の資格の獲得を目指す体制作りと効果的な指導が必要とされています。
- 3 就職難の時代も含めて、本校卒業生の活躍ぶりや即戦力としての高い評価により、就職希望者の決定率は100%を維持しています。特に就職者の6割が生徒たちの多くが希望する事務職分野に就けているという素晴らしい実績をおさめています。この強みを大切にしながら更に発展させていくことはもちろん、より多様な進路選択を可能にするため、商業教育を活かした上級学校への進学体制の充実に向けた組織的な取り組みが必要です。
- 4 スポーツ及び文化活動を通じて健全で目的意識のある、そして努力することの大切さの分かる生徒の育成に努めています。近年ではいくつものクラブが県内ならず東海地区、また全国規模で有数の成果をおさめ、学校全体の士気を高めてくれています。今後国体やインターハイの地元開催も見据え、更なるクラブ活動の充実をしていく必要があります。ただし、日々の業務や休日などにおけるクラブ指導による職員の過重労働が大きな課題です。

Ⅲ 中期的な重点目標

- 1 中学生や地域に対して、本校の商業教育の内容や実績を伝えるための情報発信を効果的に行うことにより、本校の魅力を確実に浸透させ、入学希望者の増加を図り、後期選抜での競争率1.3倍以上を目指します。特に、現在本校生徒の90%以上を女子生徒が占めていることから、男子生徒の増加をめざし、進路保障なども含めた対策を検討します。
- 2 ビジネスの高度化・多様化に対応できる人材育成のために基礎学力の充実はもとより、インターネットやインターンシップの活用、地域との連携や地域貢献等、時代のニーズに応じた多様な学習活動にも積極的に取り組みます。また、商業系クラブの活性化や各種検定・資格試験への取り組みの強化や効果的活用により、商業教育のさらなる充実を図ります。
- 3 本校の伝統や専門教育の特性を活用した効果的なキャリア教育を実践すると共に、進学も含めた多様な進路希望を実現するため、効果的な教育課程や進路指導の在り方の検討をすすめます。現在の充実した就職実績の維持発展と共に、商業専門教育や取得資格を活かした四年制大学等への進学についての研究をすすめ、国公立大学や難関及び中堅私立大学への進学も可能にする体制作りをすすめます。
- 4 クラブ活動の一層の活性化及び活動環境の充実を図り、運動部文化部を問わず、複数のクラブで常に全国大会及び東海大会で上位の成果をおさめることを目指します。特に、運動部に関しては、平成30年のインターハイ、平成33年の国体の地元開催を見据え、その充実・強化に努めます。
- 5 学校としての教育力を高めるため、職員のモチベーションアップ、専門性向上のための具体的な方策について検討をすすめます。また、教職員が健康的で働きやすい職場環境づくりと協力・協調できる職場風土の醸成をすすめます。そのため、業務の合理化等をすすめる、教職員総労働時間の縮減へ向けての可能な方策を検討します。

IV 本年度の行動計画(本年度各部の重点的な取り組み)

- 1 中学校や地域への本校の効果的な情報発信を行うと共に、メディアへのアピールを強めます。後期入学者選抜での競争倍率 1.2 倍を目指します。また、男子入学生を 1 割程度確保できるように取り組みます。

総務部

(1) 情報発信

【取組状況の指標】

○各種刊行物(学校案内、チラシ、ポスター)を精選し、充実させる。

【達成状況の指標】

○学校案内 1 回(7月)、チラシ3回(6月、10月、11月)、ポスター1回(6月)

(2) 男子入学生の確保

【取組状況の指標】

○学校案内等で在学男子生徒の様子を発信する。

【達成状況の指標】

○男子の入学志願者数

教務部

生徒や保護者にとって、魅力的で安心できる学校づくりに取り組む。授業時間の確保に努めるとともに、行事の時間を確保することで、生徒や保護者の満足度を高める。

【取組状況の指標】

○教務ガイダンスを学期ごとに実施する。(シラバスの説明、コースの説明、授業の取り組み)

○授業の振替えにより、課題授業を極力少なくする。

○特編授業の有効的な組み方をする。

【達成状況の指標】

○課題授業の割合を 1%未満にする。

○授業時間を法定時数の 90%以上にする。

○授業の満足度調査から生徒の授業の取り組み状況を把握する。

生徒指導部

【取組状況の指標】

○挨拶を励行し、明るく元気な校風であることを学校訪問や体験入学等で、知ってもらう。

【達成状況の指標】

○数値化が困難なため、4月当初から3月までの入室印象を主観的に判断する。

- 2 ビジネスの高度化・多様化に対応するため、基礎学力の充実はもとより、インターネットやインターンシップ、地域や企業と連携した学習といった時代のニーズに応じた教育活動にも取り組み、教育内容を充実させます。商業系クラブの活性化や各種検定試験や資格試験への対策強化、効果的活用を図ります。

教務部

授業力向上に努め、授業の質を高める。また、高度な資格を取得できる授業や多様な学びの形態により生徒の学ぶ意欲を喚起すると共に、資格を利用した進学等、幅広い進路選択に資する。

【取組状況の指標】

○教科で授業力向上の検討を行う。

○検定学習の更なる充実に努め、進学に繋げる。

○高校卒業後も継続して学んでいける学力を身につける。

【達成状況の指標】

- 授業の満足度調査から問題点を検討する。
- 検定合格率の状況分析。

商業部

(1) 地域や企業との連携など時代のニーズに応じた教育活動

【取組状況の指標】

- 課題研究の講座を中心とした対外的な活動（地域の活性化、地元特産物を活かした商品開発、地域住民へのパソコン講座、電子商取引、中学校への出前授業など）、流通コース選択者によるインターンシップなどを実施する。

【達成状況の指標】

- 各講座でアンケート等を実施し、参加者による評価と生徒の満足度を調査する。

(2) 商業系クラブの活性化

【取組状況の指標】

- 各種競技大会上位入賞を目指すために練習試合、合宿などに積極的に参加し、選手の意識を高め指導の強化を図る。

【達成状況の指標】

- 商業系各部活動の入部者および定着数を増やし、各種競技大会にて、全国大会・東海大会に出場する。

(3) 検定試験等の資格取得強化

【取組状況の指標】

- 全商各種検定1級および日商簿記1級、2級、経理協会上級、情報関係のIP、FE、APなど高度資格取得を目指す。
- 課外授業の充実と専門性を持った外部講師による定期講習会を実施する。
- 各授業を通じて資格取得に向けた意識付けを行い、検定補習を実施する。

【達成状況の指標】

- 高度資格取得者数を増やす。
- 各種検定試験の合格率を前年度より上げる。

1 学年

【取組状況の指標】

- 低学年からの基礎学力の充実と定着を図るため、朝の学習として100マス計算等の計算力向上の取り組みを週1回実施する。
- メモ力、準備力、整理力（いわゆる簿記における記録・計算・整理）を養うため、A6サイズノートを持たせ、メモを取ることを習慣づけ、事務的な処理能力の向上を図る。
- クラブ活動と勉強の両立をサポートするため、学年主導による定期考査前勉強会を実施する。

【達成状況の指標】

- 毎回教員により計時し、記録させる。年度末生徒アンケートの結果、「計算力が向上した」とする回答80%以上。
- 勉強会に参加した生徒の満足度80%以上。

2 学年

(1) 基礎学力の充実

【取組状況の指標】

- 朝学の時間に、漢字の読み書き・計算・英単語・一般常識等を行う。

【達成状況の指標】

- 平均正解率70%以上

(2) 各種検定試験や資格試験への対策強化

【取組状況の指標】

- 毎日の授業を重視し集中して授業に取り組む

【達成状況の指標】

- 年度末に行う満足度調査の結果で75%以上

3 学年

(1) 基礎学力の充実を図る。

【取組状況の指標】

- 普段の授業を大切に集中して学習に取り組めるクラスづくりを行う。担任と教科担当または学年と教科間の連携を密にして学習の取り組み状況の把握に努め、学習意欲を高める。
- 新教育課程による商業科コースの継続初年度であり、昨年度のインターンシップ、総合実践等の学習を踏まえ、より専門性を深める学習に取り組む姿勢を構築する。
- 朝学として、可能な時間に進路模試等の学習を各自で行うことで進路意識の強化を図る。

【達成状況の指標】

- 教務の満足度調査（集中して授業に取り組んだ）で80%以上。
- 専門の学習アンケート調査（専門性を深められた。学習効果があった。）で80%以上。
- 取組度のアンケート調査（進路意欲が高まった。学習効果があった）で良いが80%以上。

(2) 各種検定・資格試験への取り組みを強化します。

【取組状況の指標】

- 資格取得が進路に大きく影響することを説明し積極的な受験を促進する。

【達成状況の指標】

- 目標検定（簿記実務検定、情報処理検定、ビジネス文書実務検定、商業経済検定、珠算・電卓検定）の合格率、1級70%、2級80%。個人面談・保護者会学期に1回実施。

3 ジョブシャドウイングなどを含めたキャリア教育を推進すると共に、進学も含めた多様な進路希望を実現するため、効果的な教育課程や進路指導の在り方の検討をすすめます。充実した就職実績の維持発展と共に、四年制大学等への進学者の増加、国公立大学や難関及び中堅私立大学への進学も可能にする体制作りをすすめます。

進路指導部

【取組状況の指標】

- 進路講話、進学ガイダンスを通じて、進路実現についての興味・関心を高める指導を行います。
- 四年制大学の推薦入試に対応できる力がつくように指導します。そのため小論文対策指導を年2回、進路指導部による面接指導を行います。さらに外部講師による面接指導（年1回）実施します。
- 「若き匠事業」について現在の連携校との取組をさらに深化させます。
- 全1年生対象にジョブシャドウイングを実施し、職業への意識向上を図ります。

【達成状況の指標】

- 生徒に対するアンケートを実施し、「自分の進路に対する関心が増した」とする回答70%以上。
- 生徒に対するアンケートを実施し「小論文・面接試験に自信がついた」とする回答70%以上。
- 大学との連携事業における生徒ふりかえりシートやアンケート結果「知識や技能が身についた」「進路選択に大いに役立った」とする回答80%以上。
- ジョブシャドウイング実施後アンケートでの意識向上70%以上。

生徒指導部

【取組状況の指標】

- 社会人としての基礎を育成するために、生徒指導室への入室マナーを徹底する。

【達成状況の指標】

- 数値化が困難なため、4月当初から3月までの入室印象を主観的に判断する。

1 学年

【取組状況の指標】

- 進学に対する意識付けを図るため、進路情報誌の案内・取り寄せを勧める。
- 学年集会等、機会をとらえて進路について考えさせる講話を行う。

【達成状況の指標】

- 進路情報誌の業者への登録80%以上

2 学年

- (1) 生徒・保護者・学年でキャリア教育を推進する。

【取組状況の指標】

- 保護者に向けて早いうちから卒業後の進路について子どもと相談を開始し、失敗のないようにしてもらおう。
- 学年通信を利用し保護者の相談に常に対応できるようにする。
- 進路指導部と連携して外部指導者によるキャリア教育指導や進学指導の実施。
- 夏休み等の長期休業中の進学説明会への参加を呼びかける。

【達成状況の指標】

- 1学期に、PTA総会と保護者会で早くから卒業後の進路について考えるように呼びかける。2学期は期首の面談で全生徒に進路について考えさせる。
- アンケート調査（進学意欲が高まった。進学に対する理解度）で良いが80%以上。
- 年10回以上学年通信を発行し、毎回の学年通信に2学年の電話番号を載せて、保護者が疑問に思うことがあればすぐ電話してもらえるようにする。

3 学年

- (1) 進路指導部との連携により進路指導の強化を図る。

【取組状況の指標】

- 生徒の希望状況を把握するため担任面談・保護者懇談会を必要に応じて実施し、進路指導を行う。
- 進路指導部による進路説明会・進路アンケート調査を受け担任面談・保護者懇談会等による進路指導を行う。

【達成状況の指標】

- 各学期2回以上実施。
- 各学期1回以上実施。

- (2) 4年制大学等進学に対応するための課外授業や校内模試の実施。（進路指導部、各教科と連携）

【取組状況の指標】

- 進路模試、課外授業、校外模試の取り組み状況の把握。
- 進学希望者への早期からの説明会や個別指導。（担任や教科、進路指導部との連携）大学の紹介、大学入試情報の提供。
- 進学課外の取り組み状況の把握。
- 大学の学校説明会・オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。

【達成状況の指標】

- 進路模試(年間4回)校外模試における生徒の成績把握。4回の面談実施。
- 必要に応じて、各学期1回以上実施。
- 進学課外受講状況を把握し、状況に応じて面談。1回以上の面談を実施。
- オープンキャンパス・学校説明会への参加状況を把握する。進学希望者の50%以上の参加を指標とする。

- 4 クラブ活動の一層の活性化と活動環境の充実に取り組み、運動部文化部問わず複数のクラブで常に全国大会及び東海大会で上位の成果をおさめることを目指します。特に、運動部に関しては、平成30年のインターハイ、平成33年の国体の地元開催を見据え、生徒の獲得や指導体制の充実に努めます。

生徒指導部

【取組状況の指標】

○部活動を健全に行っていくために、基本的な生活習慣を育成するために、遅刻早退の数を減少する。

【達成状況の指標】

○年間の1日における遅刻早退者数割合を、全校生徒数の0.1%以下にする。

1 学年

【取組状況の指標】

○生徒会主催のクラブ紹介、担任面談等を通して積極的にクラブ加入を勧める。

【達成状況の指標】

○4月のクラブ登録時の加入率、および年度末のクラブ加入率いずれも100%。

事務部

生徒の良好な部活動をバックアップするための施設整備の予算確保や指導者の確保に努める。

【取組状況の指標】

○野球場の防護ネット整備、その他必要に応じて各種施設整備の予算確保及び指導者確保を行う。

【達成状況の指標】

○野球場の防護ネット整備設計及び工事の完了

○外部指導者の確保

○来年度に向けての施設予算の確保

運動部

【取組状況の指標】

○県高等学校総合体育大会の女子の部において2年連続優勝を目指す。

○本校生徒から国民体育大会（わかやま国体）への出場を目指す。

○全国選抜大会、ウインターカップ、全国高校駅伝への出場を目指す。

【達成状況の指標】

○全国総合体育大会出場は3種目以上、県総体総合得点は64点以上にする。

○わかやま国体への出場選手20人以上、入賞1種目以上にする。

○強化指定クラブを中心に3種目以上の全国大会出場、入賞1種目以上にする。

文化部

(1) コンクール、競技会のあるクラブは東海、全国大会出場クラブ数を増やす。

【取組状況の指標】

○指導力向上のための教員研修。生徒の外部講習会・合宿等への参加。

【達成状況の指標】

○東海、全国大会への出場 高文連所属クラブ3、商業系クラブ4

(2) 地域と連携した取り組みを充実させる。

【取組状況の指標】

○泗商ブランドを活かし、学校外での活動をアピールしていく。

【達成状況の指標】

○地域と連携した取り組みの実施回数。訪問演奏、ボランティア参加など10回/年

- 5 職員のモチベーションアップを図ります。そのため、専門性向上のための研修の機会を増やすと共に、教科会の在り方を検討します。また、風通しのよい働きやすい職場環境づくりや協力・協調体制の向上に努めると共に、総労働時間の縮減へ向けて方策を検討し、可能なことから実施します。

【取組状況の指標】

- 教職員との意見交換をすすめます。
- 各職員の課題を明確にすると共に、教科としての授業力向上の検討をすすめます。
- 総労働時間の縮減のため、各職員にリフレッシュデー設定について検討をすすめます。

【達成状況の指標】

- 各職員との面談を3回行う。
- 各自の課題改善達成率70%と各教科としての取り組み案をまとめます。
- 各職員が月一度のリフレッシュデーを設定する。

生徒指導部

【取組状況の指標】

- 定期的指導(登下校指導や頭髪服装指導等)において、教員が単独で指導に当たらないように計画・実施する。

【達成状況の指標】

- 100%。

保健部

- (1) 専門性向上のため研修の機会を増やす。

【取組状況の指標】

- 教員対象の救命講習会・特別支援講演会の実施。

【達成状況の指標】

- 救命講習においては各教員が3年に1度の受講
 - 特別支援講演会の満足度80%以上。
- (2) 情報交換に努め協力体制の向上に努める。

【取組状況の指標】

- 特別支援会議を定期的に行い、必要に応じて教科担当者会議を実施する。

【達成状況の指標】

- 特別支援会議、年間7回。教科担当者会議、年間3回の実施。

2学年

学年全体で何でも話せる、何でも相談できる体制をつくる。同時に担任間の情報格差をなくす。

【取組状況の指標】

- 学年間で、「～終わった?」「～は、明日まで!」といった「小さなお世話」ができるようにする。

【達成状況の指標】

- 学年の情報交換会を年6回(前年4回)実施。
- 学年会は、個室を予約して年30回以上。必ず生徒の状況からスタート。
- 学年通信は、年10回以上発行。毎日の連絡紙は、登校日の95%以上発行。